



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第4号
(5月25日～6月6日)



平成30年5月24日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

黒星病の発生確認と、被害葉・果は見つけ次第摘み取りを！
6月10日～6月11日頃に「落花30日後頃」の追加散布を!!
結実はおおむね良好、良果を見極め、早めの摘果を!!!

I 要約

ふじの落花日は、黒石（りんご研究所）、五戸（県南果樹部）ともに平年より5日早く、それぞれ5月12日と5月15日であった。

5月中旬から津軽地域で葉や果柄（つる）に黒星病が見られている。自園地の状況を確認し、見つけ次第、速やかに摘み取り処分するか土中に埋める。

薬剤散布は、生育が早く進んでいるため、新たに「落花30日後頃」を設け、黒石、弘前、三戸で、6月10日～6月11日頃に追加散布を行う。

本年の結実は、地域や園地によってバラツキがあるものの、おおむね良好であることから、摘果は、障害がなく形の良い果実を見極め、できるだけ早めに終えるようにする。

II りんご生産情報

1 生育、作業の進み、病害虫の動き

(1) 生育ステージ

ふじの落花日は、黒石（りんご研究所）、五戸（県南果樹部）ともに平年より5日早く、それぞれ5月12日と5月15日であった。

○落花日 (月.日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5.13	5.12	5.11	5.12
	平 年	5.18	5.17	5.16	5.17
	前 年	5.16	5.15	5.13	5.15
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5.15	5.14	5.11	5.15
	平 年	5.20	5.20	5.18	5.20
	前 年	5.18	5.16	5.13	5.18
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	5.13	5.12	5.10	5.12
	平 年	5.17	5.16	5.15	5.18
	前 年	5.13	5.13	5.11	5.14
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	5.13	5.12	5.12	5.14
	平 年	5.18	5.17	5.16	5.19
	前 年	5.15	5.15	5.14	5.16
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	5.11	5.10	-	5.10
	平 年	5.17	5.16	-	5.16
	前 年	5.17	5.16	-	5.16

注1) 落花日：頂芽花の70～80%落花したとき

注2) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 作業の進み（5月22日現在）

王林やつがる等の一つ成り摘果が行われている。

「ふじの落花直後」の薬剤散布は、5月11～12日頃が盛期であった。「ふじの落花10日後頃」の散布は、5月20日頃から行われている。

(3) 病害虫の動き

(5月22日現在 りんご研究所)

黒星病	葉上病斑初発 (本年：黒石5月10日 平年：黒石5月14日) 子のう胞子による1次感染、分生子による2次感染継続中
腐らん病	摘果後の果柄感染始まる
モニリア病	実腐れ初発 (本年：黒石5月21日 平年：黒石5月22日)
ミダレカクモンハマキ	越冬卵からのふ化終了 (越冬卵ふ化終了 本年：黒石5月10日 平年：黒石5月13日) 幼虫が葉・花を加害中
リンゴハダニ	越冬卵からのふ化終了 幼虫～成虫が混在し、葉を加害中
クワコナカイガラムシ	越冬世代幼虫の移動始まる (幼虫の移動初発 本年：黒石5月17日 平年：黒石5月22日)
モモシンクイガ	まもなく越冬世代成虫の羽化始まる (成虫初発 平年：黒石6月7日)

2 作業の重点

(1) 黒星病対策

5月中旬から津軽地域で黒星病の被害葉が見られている。

一部発生の多い地域もあるが、葉のかかりにくい場所で発生が見られている園地もあることから、自園地の状況を確認し、見つけ次第、速やかに摘み取り処分するか土中に埋める。

(2) 第5回目「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布

黒星病や黒点病などの防除対策上、重要な時期である。

黒星病の胞子が断続的に飛散しているので、散布間隔は前回散布から10日間隔とし、散布むらを生じないように適切な量を散布する。なお、散布予定日に降雨が見込まれる場合は事前散布に徹する。

第5回目：「ふじの落花20日後頃」

地 域	時 期	基 準 薬 剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	5月31日	炭酸カルシウム水和剤 100倍	4 2 0 0
	～6月1日頃	チウラム剤 500倍 又はジマンダイセン水和剤 600倍	

うどんこ病の発生が多い園地では、トップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

(3) 追加散布「ふじの落花30日後頃」

本年は生育が早かったので、適正な間隔で農薬散布を行うために、例年の5回目の「落花20日後頃」と6回目の「6月中旬」との間に「落花30日後頃」を新たに設けて、追加散布を行う。

散布量を守り、散布間隔を空けすぎない。散布予定日に降雨が予想される場合は事前散布に徹する。

なお、薬剤の年間使用回数には十分注意する。

追加散布：「ふじの落花30日後頃」

地 域	時 期	基 準 薬 剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	6月10日	炭酸カルシウム水和剤 100倍	5 0 0 0
	～6月11日頃	アントラコール顆粒水和剤 500倍 又はチウラム剤 500倍 又はパースポート顆粒水和剤 1,000倍	

※モモシンクイガ防除剤も使用する。

(4) 摘果

本年の結実は、地域や園地によってバラツキがあるものの、おおむね良好である。

摘果は、品種別の標準的な着果程度を目安に、障害がなく形の良い果実を見極め、できるだけ早めに終えるようにする。ふじでは落花25日後頃までに終えるようにする。

原則として、果実は2～4年枝上に着生した頂芽に成らせる。摘果の際は、葉が多く付いた果そうになった果実で、果柄（つる）が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残し、枝の下面に成った果実や、さかさ実、果台が長い果実（ふじではおよそ2cm以上）はできるだけ摘み取る。

摘果剤を散布した場合、落果はおよそ散布10日後頃から始まるので、効果の発現状況を見極めて、仕上げ摘果は遅れないようにする。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3頂芽に1果
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・春明21・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果
北斗	4.5頂芽に1果
陸奥・世界一	5頂芽に1果

(5) うどんこ病対策

近年発生が増加している。被害部は見つけ次第、枝ごと摘み取って処分する。

(6) 腐らん病対策

枝腐らんは、見つけ次第、切り取って処分する。

胴腐らんは、見つけ次第、泥巻き法か、削り取り法で治療する。

(7) モニリア病対策

実腐れや株腐れはそのまま放置しておく、自然落下して翌年の伝染源となるので、園内を見回り見つけ次第、摘み取って、土中に埋めるなど必ず適切に処分する。

実腐れから株腐れへの進行を防止するため、できるだけつる（果柄）ごと摘み取って果そうに褐変組織が残らないようにする。また、株腐れは果そうごと摘み取るようにする。

(8) 輪紋病対策

いぼ皮病斑は、削り取って、トップジンMペーストを塗る。

(9) 交信攪乱剤の設置

交信攪乱剤コンフューザーRは、5月下旬～6月上旬に園地内に取り付ける。広い面積で処理するほど効果が高いので、できるだけ地域ぐるみで取り組む。

(10) ふじ・早生ふじのつる割れ軽減対策（ヒオモン水溶剤の利用方法）

例年、つる割れの発生が多い園地ではヒオモン水溶剤3,000倍の満開20～30日後散布によりつる割れの発生を軽減できる。なお、使用に当たっては次のことに留意する。

- ア 単用散布とする。
- イ 散布後に葉がしおれる症状を示すが、1週間後頃にはほぼ回復する。
- ウ 高温・乾燥時の散布は避ける。新梢先端葉及び樹冠内の果そう葉の黄変落葉や頂芽の欠落が発生した事例がある。
- エ 極端に樹勢の弱い樹への散布はさける。
- オ 果実肥大が抑制される場合がある。
- カ 新梢の二次伸長を助長する場合がある。
- キ 摘果剤（ミクロデナポン水和剤85）を散布した後に本剤を使用した場合、摘果剤の効果が抑制される。

(11) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症がみられたら、下表に従い直ちに葉面散布用の精製硫酸マグネシウム（グリーントップまたはグリーントップ70）を症状の進行が止まるまで、1～4回程度散布する。散布間隔は7～10日とする。

なお、苦土欠乏は、土壌の酸性化に伴うマグネシウムの溶脱などが原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

資材名	マグネシウム含有量	水1000当たり使用量（倍数）	
		5月末まで	6月以降
グリーントップ	16%	1,500 g（67倍）	2,000 g（50倍）
グリーントップ70	23%	1,000 g（100倍）	1,400 g（71倍）

(12) ビターピット防止対策

ビターピットは幼果期（6月）の少雨、8～9月の多雨や夏期を中心とした生育期間の高温によって発生が多くなる。例年よりも樹勢が強いとみられる場合や、幼果期の少雨、夏期の高温が予想される場合、表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

なお、樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期（散布間隔）	資材形状	水1000当たり使用量（倍数）	散布回数（回）
スイカル	6月上旬～9月中旬（10日以上）	粉状	330 g（300倍）	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬（10日以上）	粉状	250 g（400倍）	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬（15日以上）	液状	200ml（500倍）	5

(13) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、乾燥している場合は、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

3 一般作業

- (1) 草刈り (2) ひこばえ、徒長枝の切り取り

4 今後の作業（6月7日～6月22日）

- (1) 薬剤散布（「落花30日後頃」、「6月中旬」） (2) 摘果 (3) 袋かけ
(4) 草刈り (5) ひこばえ、徒長枝の切り取り (6) 腐らん病対策
(7) クワコナカイガラムシ対策 (8) 追肥 (9) ビターピット防止対策

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

黒星病徹底防除推進期間中（4月～6月）

りんご黒星病の撲滅に向け、適期適量散布による薬剤防除に加え、菌密度を下げるための落葉処理等の耕種的防除にも取り組みましょう。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 りんご共済や農業経営収入保険に加入しましょう！ 》

○りんご共済

「りんご共済」は、風・ひょう・霜などの自然災害等により損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。

○農業経営収入保険

平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。

※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。

日本一健康な土づくり強化月間（平成30年4月～5月、9月～11月）
安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

青森県農薬危険防止運動展開中！（5月1日～8月31日）

農作業事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

融雪水による園地浸水や土砂災害に注意しましょう！

霜害対策を万全に！

山火事など火災の発生防止に努めましょう！

次回の「りんご生産情報」第5号は6月6日(水)発表の予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111代表
 内線 5092, 5094
 017-734-9492直通